

弘前大学教職大学院 平成 29 年度授業評価（報告） —必修科目における授業アンケート結果を踏まえて—

1. 院生による「授業アンケート」の概要

弘前大学教職大学院では、院生による授業内容の振り返りに基づいた授業の改善を目的として、各科目の授業最終日に、当該授業を履修する院生を対象に「授業アンケート」を実施、院生自身の教員としてのキャリア形成にあたり有意義であったと考えられる事柄や、授業の進め方・取り組みに関して良かった点、改善してほしい点について記述を求めた。また、本学教職大学院が教育上の理念として掲げる、「教員に求められる4つの力」（「自律的発展力」、「協働力」、「課題探究力」、「省察力」）を、各授業の中でどの程度修得できたかという点について、各科目に共通の指標を設定し、回答を求めた。

「教員に求められる4つの力」の指標は以下のとおりである。それぞれの項目について、「1. まったくあてはまらない」～「6. 非常によくあてはまる」の6段階で回答を得た。

【自律的発展力】

- ・本授業を通して、教育に関する興味関心を広めることができた。
- ・本授業を通して、教育に関する物事の見方や考え方を深めることができた。
- ・本授業を通して、教員としての自らの能力をより高めようとする意欲が高まった。

【協働力】

- ・本授業の中で、ほかの人に対して自らの考えを伝えることができた。
- ・本授業の中で、ほかの人の多様な意見について尊重することができた。
- ・本授業の中で、グループワークにおいて自分に期待される役割を果たすことができた。

【課題探究力】

- ・本授業を通して、教育実践上の新たな課題を見出すことができた。
- ・本授業を通して、教育実践に関する課題認識を深めることができた。
- ・本授業を通して、教育実践に関する課題の解決方法について検討することができた。

【省察力】

- ・自らの教育実践を、本授業の内容と関連付けて振り返ることができた。
- ・本授業を通して、教育実践にかかる自らの課題認識に関して新たな気づきを得ることができた。
- ・本授業を通して、教育実践にかかる自らの課題認識について、経験に基づく印象と事実に基づく判断とを区別して捉え直すことができた。

2. 領域別にみる「4つの力」の修得状況

次の表は、1年次の必修科目—基礎科目（5領域10科目20単位）と独自テーマ科目（「あおもりの教育Ⅰ（環境）」及び「あおもりの教育Ⅱ（健康）」の2科目4単位）のうち、平成29年度前期後半に開講された基礎科目5領域7科目（①教育課程の編成・実施に関する領域1科目、②教科等の実践的な指導方法に関する領域2科目、③生徒指導、教育相談に関する領域1科目、④学校経営、学級経営に関する領域1科目、⑤学校と教員に関する領域1科目）と、地域の教育課題の解決に必要な知識とその実践方法について理論的に学ぶ独自テーマ科目（「あおもりの教育Ⅰ・Ⅱ」の2科目）において実施した授業アンケートの回答を集計した結果である。「教員に求められる4つの力」それぞれについての回答の合計値（最大6点×各3項目＝18点）を求め、領域毎、コース別（ミドルリーダー養成コース（現職院生）及び教育実践開発コース（学部卒院生））に平均値を示した。

	①教育課程の編成・実施に関する領域		②教科等の実践的な指導方法に関する領域		③生徒指導、教育相談に関する領域		④学級経営、学校経営に関する領域		⑤学校と教員に関する領域		独自テーマ科目 (あもりの教育Ⅰ・Ⅱ)	
	ミドルリーダー 養成	教育実践 開発	ミドルリーダー 養成	教育実践 開発	ミドルリーダー 養成	教育実践 開発	ミドルリーダー 養成	教育実践 開発	ミドルリーダー 養成	教育実践 開発	ミドルリーダー 養成	教育実践 開発
自律的発展力 (最大18点)	17.50	16.33	16.63	16.20	17.00	17.60	17.00	17.40	16.88	16.70	16.50	15.40
協働力 (最大18点)	16.13	15.89	15.00	14.75	16.50	16.20	15.63	15.70	15.63	16.35	14.88	14.90
課題探究力 (最大18点)	17.38	16.11	15.25	14.80	16.63	16.90	17.50	15.70	15.25	16.60	15.81	16.05
省察力 (最大18点)	17.13	15.78	16.25	14.65	16.75	16.30	17.13	15.50	16.19	15.20	15.13	14.85
合計 (最大72点)	68.13	64.11	63.13	60.40	66.88	67.00	67.25	64.30	63.94	64.85	62.31	61.20

3. カリキュラムの改善に向けて

授業アンケート結果については、全体的に見て肯定的な回答が多いが、いずれのコースも、「独自テーマ科目」及び「教科等の実践的な指導方法に関する領域」において、「教員に求められる4つの力」の修得状況にかかる回答の合計値が比較的低い。その要因として、第一に、「教科等の実践的な指導方法に関する領域」は、特に両コース院生間での実務経験の差が大きい分野であり、両コース院生が共に履修することによる相乗効果が得られにくかった可能性、第二に、地域課題に関する専門家を講師として招聘しての演習やフィールドワークから得られた知識や経験を、学校教育現場での実践においていかに活用すべきか、院生自身による十分な考察を促すことができなかつた可能性がある。

以上を踏まえ、カリキュラムの改善に向けて、次の2点について検討を深めることを提起する。

(1) 授業科目と実習科目との連携

両コース院生による共修は双方の学び合いを促す等、メリットは多くあると考えられてきたが、この授業アンケート結果を踏まえるならば、院生の教員としての実務経験の差異を考慮した指導体制の工夫を図ることによって、授業内容に対する院生の理解度や満足度をより高めることができるものとする。具体的には、授業科目と実習科目の関連性を活かしたカリキュラム運営、例えば、「教科等の実践的な指導方法に関する領域」の授業における学びについて、実習科目における授業実践との関連を持たせ、相互補完的に位置づけるといった工夫を図ることは今後の課題である。

(2) 授業科目間の連携

上述の「独自テーマ科目」では、院生による授業アンケートの自由記述において、地域課題に関する専門的知見が得られたことを高く評価するコメントが多かった。一方で、グループワークの時間をもっと多く設けて欲しかったとのコメントも散見された。地域課題に関する専門的知見を教育実践の場で活用し、地域の教育課題への応答を促すためには、「独自テーマ科目」の授業内においてのみならず、必修科目5領域のそれぞれの授業において、様々な視点から考察を深めることも効果的であるものとする。

カリキュラム全体において科目間の連携を図ることは、個々の院生による研究課題の明確化や深化にも寄与し得る。必修科目の各授業では、「4つの力」に照らして修得させたい力をさらに意識した内容構成に努めるとともに、必修科目の各授業での学びを総括するような機会を設けることについても検討が求められる。